

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 13 No.22 2011年11月30日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2011 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ソニー、Gシリーズ後継のSD対応ビデオ会議システム発売



ソニーPCS-G60(ソニービジネスソリューション 資料)

ソニービジネスソリューション株式会社(東京都港区)は、SD対応ビデオ会議システム「PCS-G60」の販売を10月3日より開始した。価格は、オープン。

PCS-G60は、PCS-XG55をベースにしてはいるが、SD対応のGシリーズ「PCS-G50」や「PCS-G70」の後継機種として位置づけられている。

そのため、映像解像度については4CIFに対応している。またカメラについては、PCS-G50と同じカメラを採用している。1年保守については、「PSC-TL33」以降ソニービデオ会議では標準添付となっているが、このPCS-G60は、Gシリーズに合わせ別途契約が必要な形となっている。

以後ソニーのビデオ会議端末は、HD対応の「PCS-XG80」、「PCS-XG55」、「PCS-XA80」、「PCS-XA55」、「PCS-XL55」の5機種と今回発表されたSD対応の「PCS-G60」の合計6機種のラインナップとなる。一方端末に加えて、多地点接続用サーバー「PCS-VCSシリーズ」もあわせて提供する。

「ラインナップを拡充することでユーザの現状に合わせてシステム構成が柔軟に行える。もちろん、従来のPCS-1や

PCS-33などの機種とも接続が可能だ。加えてPCS-G60は、HD機との接続性も良いため今後のHD機全社展開などへのワンステップとなる。」(ソニービジネスソリューション)

PCS-G60の映像符号化方式は、H.264ハイプロファイルに対応しており、従来の半分の帯域で4CIF解像度を送受信できる。ただし、HD機とのビデオ会議接続の場合、受信については720p、一方送信については4CIFとなっている。そのためHD機との接続性を向上している。一方、音声については、MPEG-4 AAC-LCに対応しステレオも可能だ。

データ共有は、H.239デュアルビデオに対応(オプション:データソリューション)。H.239会議時での映像(人の顔を表示する方の画面)については4CIF、データ(資料を表示する方の画面)についてはSXGAまで対応。フレームレートは、30フレーム/秒。加えて、データ共有で有効な書き込みができる「ビデオアノテーション」機能も提供している。

「このH.239のフレームレートについて、PCS-G50では5フレーム/秒だったが、PCS-G60で大幅に向上した。アニメーション再生もスムーズに行える。」(ソニービジネスソリューション)

多地点接続について、PCS-G60ではIPとISDNと両方オプション(多地点接続用ソフトウェア)で対応している。

この多地点接続用ソフトウェアをインストールした親機1台では最大6台の多地点ビデオ会議が可能。加えて、親機2台使用時は10台になる。ただし、2台の親機のうち一方の親機にH.320端末が接続される場合は最大8地点まで、また両方の親機にH.320端末が接続される場合は最大6地点まで接続することが可能だ。

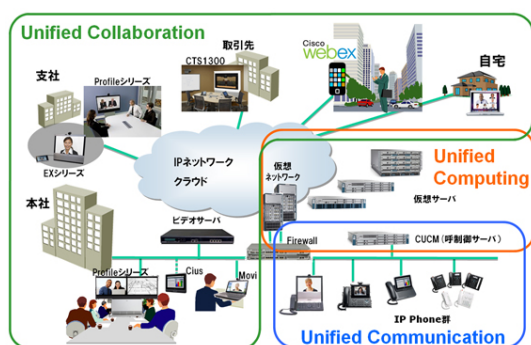
その他、このPCS-G60は、インテリジェントQoS、暗号化、異速度通信、ストリーミング、メモリースタック、RFリモコンなどPCS-XGやXAシリーズで採用されている機能を搭載している。またオプションは、PCS-XGやXAシリーズのオプ

ションと共通となっている。多地点接続用ソフトウェア、データソリューションソフトウェア、ISDN インターフェースユニット、マイクロホン、ビデオアノテーション用ペンタブレットなどを提供している。

なお、PCS-G60 のカメラについては標準カメラ以外のカメラをオプション購入することも可能だが、製品としては、PCS-G60 はカメラ、本体などを含みワンパッケージとして販売する。

日立情報通信エンジニアリング、スマートコラボレーションの販売を開始

日立情報通信エンジニアリング株式会社(神奈川県横浜市)は、スマートコラボレーション「UC3(ユーシーキューブ)」ソリューションを11月1日より販売開始すると発表。出荷開始は、2012年1月から(11月1日)



UC3ソリューション概要イメージ(日立情報通信エンジニアリング 資料)

UC3は、IP電話、メール、FAX、テレビ会議(スマートフォンも含む)、Web会議、テレプレゼンスなどを組合せ、これらのシステムを仮想サーバーや仮想ネットワークで構築するソリューション。このソリューションには、シスコシステムズ社製のユニファイドコミュニケーション(IP電話、メール、FAXを統合)、ユニファイドコラボレーション(テレビ会議などを統合)、ユニファイドコンピューティングシステム(仮想サーバー)を採用し、ユーザーにとって最適なスマートコラボレーション環境を提供している。

UC3環境を構築するにあたっては、社内のネットワークシステムの事前調査から、設計・構築・導入・アフターサービス

までトータルに支援する。

日立情報通信エンジニアリングは、1993年よりシスコ製品を取り扱ってきたシスコゴールド認定パートナー。同社内のラボにて機器評価・検証を行い、高い信頼性と可用性の機器を提供するという。

販売価格(ユニファイドコラボレーション)は、分散型小規模システム4拠点同時接続モデルの場合、400万円から(設置費込み)。

販売目標は、2012年は2億円、2013年は4億円。

ラドビジョンジャパン、「SCOPIA Mobile V3」の配信サービスを開始

RADVISION JAPAN 株式会社(東京都台東区)は、HD(720p/15fps)に対応した「SCOPIA Mobile V3」アプリケーションをアップル社のAppStoreから無償でダウンロードできるサービスを開始したと発表。(10月12日)

SCOPIA Mobile V3は、同時には1000拠点まで、また同一会議室には300拠点からの参加が可能で、世界標準に対応している接続性、スムーズな操作・資料共有機能、ならびにスマートフォンによる会議制御機能に特長があるとしている。

まず接続性のところでは、国際標準に対応した各社のビデオ会議システムの他、マイクロソフト社の「Lync」やIBM社の「Lotus Sametime」にも接続が可能という点がまずあげられる。またHTTPSによる自動NATファイアウォール越え、NetSense(QoS)にも対応している。

操作・資料共有機能については、カレンダーのイベントやEメールに指定されているURLをクリックすることで会議に参加が可能。資料共有は、H.239対応し、資料の参照を自由に行える「コンテンツスライダー機能」を標準装備。

会議制御機能については、企業内ディレクトリーからの招待をしたり、直接電話番号やIPアドレスを入れることで外部のゲストを招待したりできる。また会議中には、参加者の音声ミュートや退出、遠隔地カメラの停止、ビデオレイアウトの変更、録画、ストリーミング、会議ロック、会議終了などの

制御がスマートフォンの画面で操作可能。その他、会議中の解像度、帯域、パケットロスなどの統計データの参照が可能となっている。

一方、カメラとオーディオ機能の面では、前面カメラと背面カメラの切り替え、横置きや縦置きでのカメラ追従、PIP(ピクチャーインピクチャー)対応。他、エコーキャンセラ、オートゲインコントロール、ノイズリダクションなどにも対応している。

SCOPIA Mobile V3.0 利用のためには、「SCOPIA Elite」や「SCOPIA Desktop Server」が必要。それに加えて SCOPIA Desktop Server にモバイルライセンス、もしくは、SCOPIA Desktop ライセンスが必要。なおゲストユーザ(無償)の数は、モバイル端末が利用可能なライセンスユーザー数の 10%を上限としている。

ラドビジョンジャパンとしては、日本国内において今後 3 年間の間に 30 万回の SCOPIA Mobile V3.0 のダウンロードを予測している。

ライフサイズのビデオ会議システム、iPhone4S に対応。会議室からデスクトップ、スマートフォンまで対応

ロジテック社のビデオ会議事業部門であるライフサイズは、モバイルビデオ会議プラットフォーム「LifeSize ClearSea(ライフサイズクリアシー、旧 Mirial ClearSea)」がアップルの iOS 5 (iPhone4S のサポートを含む)に対応したと発表。(10 月 6 日)

LifeSize ClearSea は、デスクトップとモバイル機器でビデオコラボレーションができる企業向けのクライアントサーバーソリューション。H.323 と SIP のビデオ会議システムにシームレスに接続が可能。LifeSize ClearSea Server は、ハードウェアアプライアンスまたは仮想マシンソフトウェアとして利用ができ、Windows PC、Mac の他スマートフォン向けでは、Android や iOS に対応している。NAT とファイアーウォールのトラバース機能と多地点会議機能も搭載している。LifeSize ClearSea は、世界で提供中。価格は約 8000 米ドルから。無料体験版も提供されている。

2011 年 7 月にロジテック社が Mirial 社を買収して以来、ラ

イフサイズは、会議室に設置する専用端末から Windows PC、Mac のデスクトップ、そして Android や iOS に対応したスマートフォンやタブレットまで及ぶオープンで相互運用が可能なビデオコラボレーションソリューションの実現に向けて取り組んできた。

日本での販売は、株式会社日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)。

NTT アイティ、非常時に企業幹部が自宅から簡単に幹部会議に参加できるミーティングプラザ「VIP オンライン」を新発売



ミーティングプラザ「VIP オンライン」の画面例(NTT アイティ資料)

NTT アイティ株式会社(横浜市中区)は、企業幹部向け Web テレビ会議ミーティングプラザ「VIP オンライン」を 11 月 1 日より発売した。(10 月 25 日)

ミーティングプラザVIPオンラインは、震災など出勤困難時に企業幹部同士が自宅からインターネットを利用して多地点 Web テレビ会議を簡単に行うことができるとともに、平常時でも、在籍表示(プレゼンス)や社内外の各種会議をミーティングプラザVIPオンラインで簡単に行えるというもの。最大 32 名までの会議が可能。

震災時の通信手段として電話よりもインターネットが活躍したことを踏まえて、インターネットを使用した幹部間の通信手段の構築や、パソコンに不慣れた経営幹部からの操作をもっと簡単にしてほしいなどの要望に基づいて、あらたに「個人専用会議室アイコン」と「プレゼンス機能」を開発し

ミーティングプラザ VIP オンラインとして提供することになった。

個人専用会議室アイコンは、アイコンをクリックするだけで簡単に Web テレビ会議室に入室することが可能になるもの。またプレゼンス機能は、平常時の経営幹部の在籍か離席かの状態を表示させることが可能なもので、顔画像表示はプライバシーを配慮し低解像度の画像で幹部の顔などを表示する。

ミーティングプラザVIP オンラインの販売は、クラウドサービス、ライセンス販売の2種類で提供。ただし、専用アプライアンスが必要となる。専用アプライアンスは、Web カメラとエコーキャンセラ付きスピーカーマイク付属のノートパソコンに会議室アイコン(USB キー添付)を予めインストールしたアプライアンス。

価格については、クラウドサービスが、5 拠点接続(定額ライト)で初期費用 60,000 円、月額基本料金 45,000 円。使用時間の上限はなし。使い放題。

システムライセンス販売は、16 拠点を接続する基本パッケージライセンス(16)で価格は、140 万円。24 拠点接続から 64 拠点接続まで接続数 8 単位で選択可能。使用時間の上限はなし。使い放題。

専用アプライアンスについては、オープン価格。

NTT アイティとしては、年間クラウドサービスとして 1000 アカウント、システムライセンスとして 100 ライセンス販売することを目標としている。

VQS マーケティング、リモート黒板を参考出展

VQS マーケティング株式会社(京都市南区)は、CEATEC Japan 2011(10月4日～8日 幕張メッセ)の株式会社ウルトラエックスのブースにおいて、「リモート黒板(仮称)」を参考出展した。(10月3日)

リモート黒板(仮称)は、Web 会議・遠隔授業システム「VQS コラボ」のホワイトボード機能を単体で商品化したソフトウェア。手書きデジタルペンを使ったメモ感覚での書き込みの他、キーボード入力、定型文・ヒントの挿入、JPEG や BMP 画像のド

ラッグ&ドロップ表示、複数ページの資料アップロードやページめくりが行え、ホワイトボードの画像を保存、印刷もできる。

このリモート黒板(仮称)は、テレビ会議、Web 会議あるいは電話との組合せで活用が可能という。

VQS コラボは、音楽圧縮技術(TwinVQ)採用、特許を取得している手書きデジタルペン入力、選べる会議室タイプ(1:3～1:45まで用途に合わせ)、低帯域に対応する通信帯域制御などの特長がある。VQS コラボは、教育に特化した教育事業向けバージョンも用意されている。

ビジネス動向-国内

ポリコムジャパン、Polycom OTX 300 を社内 に設置、ユーザー向けの説明・デモを開始

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、イマーシブテレプレゼンスソリューション「Polycom OTX 300」のユーザー向けの説明・デモを開始したと発表した。(11月2日)



Polycom OTX 300-今回の発表に際して記者向けに OTX のデモを実施。中国支社との1対1の接続と、中国、シンガポール、香港、そして日本の4ヶ所を接続しての多地点行った。写真は、その際の多地点会議デモの様子。

Polycom OTX 300-今回の発表に際して記者向けに OTX のデモを実施。中国支社との1対1の接続と、中国、シンガポール、香港、そして日本の4ヶ所を接続しての多地点行った。写真は、その際の多地点会議デモの様子。

ポリコムジャパンは、先月10月に同社内のエグゼクティブブリーフィングセンター(EBC)に Polycom OTX 300 を設置、導入検討企業向けの説明やデモを開始した。この

Polycom OTX 300 は、昨年 7 月 22 日にポリコムジャパンより新製品としてプレスリリースが行われていたもの。

ポリコムジャパンでは、すでに「Polycom RPX」を EBC に設置しているが、今回 Polycom OTX300 を加えることでテレプレゼンスソリューションを体感できる環境をさらに充実させる。

「日本でのテレプレゼンス導入はこれから本格化すると期待しているが、現在アジア太平洋地域を見渡すと、今のところインドや中国での導入が顕著だ。その中ではステータスとして導入する企業もある。



それに対して日本でのテレプレゼンス導入は、海外の法人から設置依頼に基づいて行われることが比較的に多い。」(ポリコムジャパン)

現在すでに販売されているハイエンドタイプのテレプレゼンスシステムである Polycom RPX については、コーデックやスクリーンその他、テーブル、ライト、部屋のインテリアまで部屋も含め全てトータルにパッケージ化されたソリューションである。



「テレプレゼンスシステムは、リアルに近い環境を提供することを目的としたシステムであるため、それを実現するためのさまざまな“作り込み”が行われている。」(ポリコムジャパン)

一方 Polycom OTX は、部屋の大きさやインテリアのインテグレーションにより自由度があるシステムとなっている。加えて価格の面でも Polycom RPX よりも価格を抑えたモデルとなっているという。

「RPX に比べ OTX は、価格の面でより導入しやすくなって

いる。また日本の会議室にフィットしやすい点が強長だ。」(ポリコムジャパン)

Polycom OTX 300 の画面サイズは、65 インチ 3 画面タイプ。コーデック(1080p 対応の「Polycom HDX」を 3 台使用)、カメラ、マイク、スピーカー、テーブル、タッチパネル式リモコン、椅子(6 人)の他、ライティング(オプション)、ウォール(オプション)を提供している。ちなみに、Polycom OTX シリーズには、1 画面タイプの「Polycom OTX 100」も用意されている。

マイクについては、RPX などに採用されているシーリングマイク(天井から吊り下げられたマイクを 3 個使用)を採用しており、カメラとスピーカーは、ディスプレイに組み込まれている。

一方、テーブルにはデータ共有資料表示用のディスプレイが 3 台格納されており、テレプレゼンスでの会議中にデータ共有(現在は相手に表示させるのみ。今後 H.239 対応



予定。)を行う際に自動でディスプレイを開けられるようになっている。これは OTX に接続されている



PC で資料共有を始めると連動するようになっている。加えて、テーブル埋め込みのボタンを押すことで開けることも可能だ。

タッチパネル式リモコンについては、昨年 4 月に発表された Android ベースの HDX

システム用のタッチスクリーンデバイス「Polycom Touch

Control」を使用している。相手を画面上で選択するだけですぐに接続ができる。

その他、ウォールについては、同室感を作り出すための工夫のひとつだ。これを使用することで、画面に映っている人物が立体的に浮き上がって見えるようになっている(いわゆる3D的な表示)。

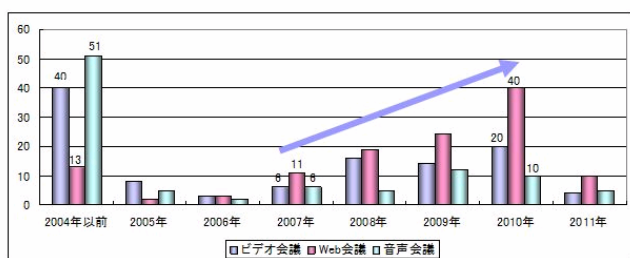
なお、ポリコムジャパンでは、エグゼクティブ ブリーフィング センター (EBC)を北米以外では初めて2008年10月に東京に開設し現在は世界5ヶ所にある。また、EBCに加え、ソリューションセンター(SC)が世界32ヶ所にある。これらEBCやSCは、体感して納得した上で導入をしてもらうことを主眼としているという。

市場動向-国内

シード・プランニング、ビジネス利用実態調査報告書発刊、2004年以來今年で継続調査7回目

株式会社シード・プランニング(東京都台東区)は、ユニファイドコミュニケーションシステム(ビデオ会議、Web会議、音声会議)のビジネス利用実態調査を実施しその結果をまとめた。2004年から実施。今年(10月19日)

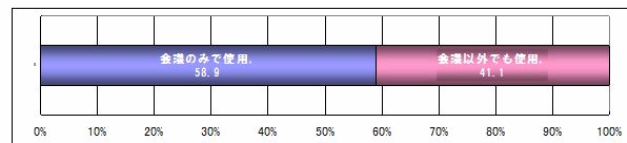
タイプ別導入時期 (単位:件、n=329)



(シード・プランニング作成)

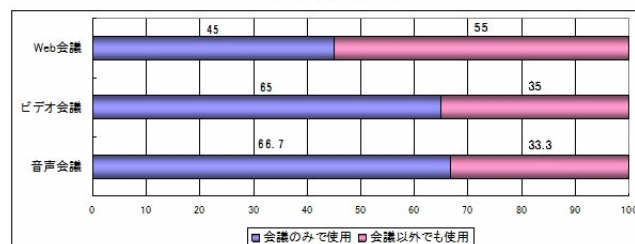
導入時期について。導入ユーザー540件のうち329件の時期がわかった。他211件は導入時期不明と回答。2004年以前においては、音声会議(51件)とテレビ会議(40件)が多く、Web会議(13件)と少なかったが、2007年には、音声会議もテレビ会議もそれぞれ6件だったところ、Web会議については、11件と逆転した。その後2010年には、音声会議が10件、テレビ会議が20件、そしてWeb会議が40件とWeb会議の導入数が増加している傾向がわかった。

導入ユーザーの用途(n=540)



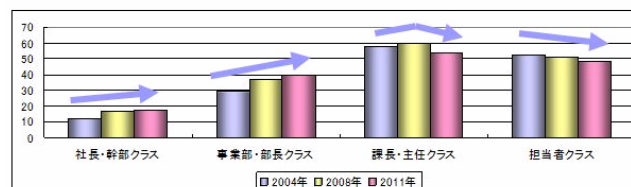
(シード・プランニング作成)

タイプ別の用途(n=540)



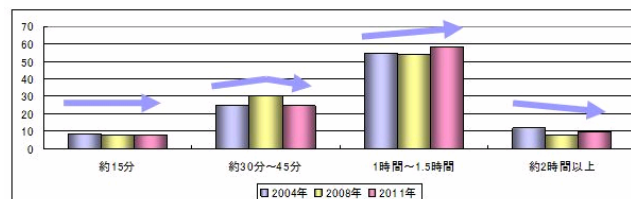
(シード・プランニング作成)

参加メンバー(単位:%、MA)



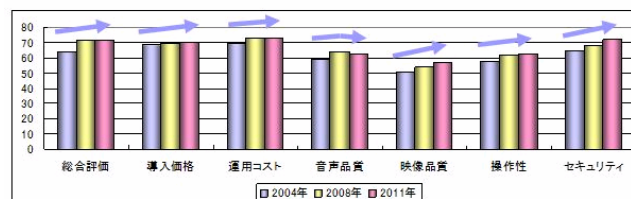
(シード・プランニング作成)

利用時間 (単位:%)



(シード・プランニング作成)

満足度 (単位:%)



(シード・プランニング作成)

一方、導入ユーザーの用途は、59%が会議のみの使用、また41%のユーザーが会議以外にも使うと回答している。会議以外にも使うユーザーはWeb会議が55%と最も多い。会議以外では、研修での利用が69%と最も多かった。

また会議の参加メンバーを見てみると、2004年から2011年までの継続調査の結果、「社長・幹部クラス」と「事業部・部長クラス」は増加したが、「課長・主任クラス」、「担

当者クラス」は減少傾向を示した。加えて、会議の利用時間は、「1時間～1時間30分」実施するユーザーが増加傾向にあるという。

同社では、2004年から毎年利用実態調査を行ってきた。7回目となる今回の調査も、ビジネスユーザー540名を対象に、利用実態、利用評価、対象拠点数、今後の改善点などの実態を調査し、過去6回の調査との比較を行い、今後ユーザーが求める方向性を分析している。

なお、本調査結果の詳細は、調査研究レポート「2012 ビデオ会議/Web会議/音声会議のビジネス利用実態調査～ユニファイドコミュニケーションシステム(映像コミュニケーション)のビジネス用途継続調査～」として販売している。価格(税込):168,000円。10月5日発刊。

セミナー・展示会情報

<国内>

『映像コミュニケーションツールを初めて使うユーザーが体験したつまずき』～ユーザーの行動観察、インタビューからわかったこと～

日時:12月1日(木) 18:00-20:00

会場:都内セミナールーム(東京駅近く)

主催:株式会社ヒューマンインタフェース

詳細・申込:

<http://usability-humaninterface.blogspot.com/2011/11/5.html>

『ビデオ会議システム 円滑運用のノウハウご紹介』セミナー～複数メーカー新旧混在、異機種間接続を実現して既存システムを有効活用～ 東西同時開催

日時:12月7日(木)14:30-17:25(受付開始14:00)

会場:パナソニック電工インフォメーションシステムズ 東京/大阪

主催:パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社

共催:パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社

システムズ合同会社

(東京)詳細・申込:

<https://event.panasonic-denkois.co.jp/public/seminar/view/183>

(大阪)詳細・申込:

<https://event.panasonic-denkois.co.jp/public/seminar/view/181>

ワークスタイル変革セミナー「グローバル企業における経営企画・経理財務部門の役割～コラボレーションプラットフォームによるワークスタイル変革～」

日時:12月7日(水)14:30-16:30

会場:東京 iDeep ソリューションズ本社(東京都港区)

主催:iDeep ソリューションズ株式会社

デロイト トーマツ コンサルティング株式会社

詳細・申込:<http://ideep.com/seminar/index.html>

ワークスタイル変革セミナー「グローバル企業における経営企画・経理財務部門の役割～コラボレーションプラットフォームによるワークスタイル変革～」

日時:12月9日(金)14:30-16:30

会場:シャープ本社ビル(大阪市阿倍野区)

主催:iDeep ソリューションズ株式会社

デロイト トーマツ コンサルティング株式会社

詳細・申込:<http://ideep.com/seminar/index.html>

新しい経営スタイル=時代はスマートフォンへ!

Web会議 SaasBoard/SP のビジネス応用

スマートフォンが切り開く新しい経営スタイル

日時:12月9日(金)13:30-17:00

会場:渋谷区商工会館(東京都渋谷区)

主催:ニューロネット株式会社、ライド株式会社

詳細・申込:<http://www.neuronet.co.jp/eventSeminar.html>

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

12月末の発行は例年お休みですので、今年の発行は、次号残り1回となりました。

来月はこれまでの十数年蓄積してきた遠隔会議に関する情報をひとつひとつ見直す予定です。これまで遠隔会議がどのように進化してきたかあらためて認識したいと思っています。私自身の仕事のミッションは、遠隔会議を究めていく中で遠隔会議の可能性を見いだしていくことにあるからです。

この私の遠隔会議を究めていく仕事は、お金になる、あるいはお金にならない、の話ではなく、私自身のライフワークだと思っています。今はお陰様でなんとかこなしていますが今後仮に事業収入がなくなったとしても継続していくつもりです。

また、この定期レポートの読者がゼロになっても続けます。なぜなら、形はニュース提供ですが、気持ちとしてはこの定期レポートは、自身のリサーチの一環として作成しているからです。速報性より記録が重要と考えおり、またどうやれば読んでもらえるかはあまり考えていません。

しかし、もし情報収集の参考にしていただけるのであれば、メーリングリスト dtc-forum や Twitter、Facebook などと一緒にこの定期レポートをご覧いただければと思います。この定期レポートに掲載しているのは、各社からのプレス発表や私の独自取材による記事やレポートのみだからです。その他の情報は dtc-forum であついています。

また、私の活動状況や興味のあること、考えていることなどは Facebook(橋本啓介)に日々投稿していますのでもし興味があったらご覧いただければと思います。できる限りプライベートなことを含んだ、あるがままの素の自分を出すようにしたいと思っています。その方が私のためにもなるし、また皆さんのためにもなるからです。

次号もよろしくお願ひ致します。

橋本 啓介